

地域が支える子どもの学びと育ち ～サードプレイスの充実～

N P O 法人コミュニティサポートスクエア 杉浦陽之助

若者（生活困窮者）

- 就労準備支援事業

法人の様々な活動の中に組み入れる。その象徴的な場所がコミュニティ・カフェわおん。他、屋台、駄菓子屋、学習支援などの担い手側に加えることで、経験値の向上や、特性を踏まえたアドバイスを与え、経済的・精神的自立を目指していけるよう支える。

- 岐阜市中央青少年会館での「サテライトわおん」事業
バンド演奏を通じ、楽しむことで心を開放していくことを目指す。



子ども（生活困窮世帯）

- 寄り添い型学習支援事業

カフェわおんにて月・水・金17時～21時。

茜部公民館にて木18時30分～20時30分。

生活保護世帯、就学援助世帯。貧困の連鎖を断ち切る。岐阜市委託事業につき利用料なし。

- よりそいステーション事業

学習支援時に、学習以外の課題の相談や対応を実施。食糧支援など。

- 子ども見守り宅食事業

子ども若者総合支援センター（エールぎふ）が把握している見守りが必要な子どもを中心とした世帯の見守り活動。週1回お弁当を届けながら確認する。



多世代・立場の垣根を越えて

- おとなも子どももOK食堂

カフェわおんにて、安価な会食（コロナ禍で休止中）

- 三田洞団地での炊き出し活動

2020年12月20日三田洞団地集会所にて、鳥鍋200人前の振る舞い。

白菜、大根などの無償提供。

- 被災地支援

様々な立場の人に共感の種をまく。



学習支援室の子どもの声、様子

①保護者に対する不満

- ・親の内と外での差、親の気分でいうことが変わる、ちゃんと話を聞いてくれない、親の体調面で家事負担が多いetc…

②自傷行為を語る

- ・実施したこと、親・先生にばれると叱られる、学校でSCと面談したところでなんにも解決しないetc…

③学力不振者は、ほぼ勉強しないが、ほぼ来る。

④男子よりも女子のほうが精神的荒みが表出しやすい。

課題…サードプレイスとしての学習支援

- ①学習支援というよりも居場所として認識...子ども達につながり続けることが肝心
勉強する予定や気持ちを確認し、学習の促進はするが強制まではしない。
- ②サポーターは見守り役。子ども同士のコミュニケーションの場面が多く、そこにサポーターが関わり子どもの状況の把握を心がける。
- ③子ども同士の関係性の変化により、場全体が変化する。
- ④参加することも休むことも自由。所属しなくなることも自由。
- ⑤リピートしたくなることと特定の常連で排他的な雰囲気を作らないことの両立

子どもにとってのサードプレイス

中立的で・所属に関係なく・平等主義で・アクセスしやすく・オープンで・穏やかで・機嫌よく過ごせる場

⇒子どもが置かれた特定の家庭環境、経済状況などの「条件」が設定されるべきではない。

⇒代表的な場所（地域）で集約するのではなく、どの子にも身近に存在していることが望ましい。

⇒安心して、居心地よく過ごせる設計。制約の多い場所是不適切。

行政に必要な視点

本来、サードプレイスは成人でいえばカフェ、クラブ、パブ、公園、ネット上のコミュニティなど、すべての人にとって家庭や職場・学校を離れたところに自分が心地よいと感じられる場を選ぶべきもの。サードプレイス自体は多様である。言い換えれば際限がない。ただし成長過程の子どもが過ごせる場自体に制約がある中、家庭にも学校にも居心地の良い場が確保されていない子どもの存在に目を向け、その子たちが孤立したり、荒れていったりしないように関われるのが行政ではないか。

以前、当法人運営の学習支援室がある地域の小学校長が何度も見学に来られ、最終的に信用していただき、当時小**6**の**K**君にここに行くよう勧めてくれた。その彼の他に兄弟**3**人が順次来るようになり、高**1**になった**K**君ともつながり続けている。地域の資源を活かした事例として特記すべきことと感じている。

求められる施策

①家庭、学校に居心地の悪さを大きく感じている子どもの存在を把握する。

②①の機能を兼ね備えた、居場所的な利用が可能な場「校内カフェ」を校内に設ける。運営は外部人材。（右の写真は横浜市の高校で、知り合いのNPOが実施している図書館カフェ）。教育委員会で予算化。

飲み物、食べ物の調達は地域や保護者からの寄付や防災備蓄品の入れ替えなどで極力支出を抑制する。仕組みを学ぶために実践団体を招聘しての勉強会実施。現場視察なども組み込む。

③②が難しい場合、校長対象の、地域子ども食堂や学習支援室などとの交流会、研修会などを設定する。



校内カフェの有用性...大人が子どもの居場所に関わることで より育まれる可能性がある**2**つの資本

1. 文化資本 参考 <https://kayakura.me/culture-capital/>

- ①個人に蓄積される言語、知識、教養、技能、趣味、感性などの「**身体化された文化資本**」
 - ②書物、絵画、楽器、道具、機械など物質として所有できる「**客体化された文化資本**」
 - ③身体化された文化資本が公的な承認を得た学歴や資格などの「**制度化された文化資本**」
- これらの「入口」を示すことが可能な大人の存在がサードプレイスの充実につながる。

2. 社会関係資本（ソーシャルキャピタル） 参考 <https://kayakura.me/social-capital/>

良好な人間関係、モデルたりうる人物とのつながり、信頼。

ソーシャルキャピタル(社会関係資本)が豊かな地域は、孤独になりづらくお互いに支え合えるのでさまざまな地域の課題を解決する可能性が高い。

オンラインでのサードプレイスの可能性

居心地の良さを獲得することは可能。同時に依存性も高まることが危惧。

学びの講座のような性質のオンライン化は奨励されるべき。

オンライン上の場の整備に関する検討会等での専門的議論を経て実行していくことが望ましいと感じる。

以上、ご清聴ありがとうございました。